

令和3年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（全体）

高山市地域公共交通活性化協議会

平成21年3月13日設置

フィーダー系統 令和3年6月25日 確保維持計画策定等

直近の二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
のらマイカーの運行見直しについて、各地域との協働を図りつつ、利用者の意見を踏まえ、利用者数の目標が達成されることを期待します。	地域の要望により、一之宮地域（デマンドタクシー）および上宝地域について地域外への路線延伸を行ったことで、利用回数の増を図ることができた。	引き続き地域のニーズを定期的に把握しながら、地域の実状や特性にあわせた運行体系となるよう見直しをすすめていく。
新設された観光特化路線は、今期の検証ができないことから、コロナ収束後、市内全体のネットワークの効率化を含め、適切に検証を行うことも重要と考えます。	観光特化路線を利用した企画商品の販売やのりものラリーinたかやまでの路線活用、観光ホームページでのPRなど、コロナ後の利用増を見据えて積極的な周知に努めた。	車両の運用方法の見直しや事業者運行路線との相互直通運転の見直しにより、効率的な運行を行っていく。 車両のPR動画の作成や県外へのPRなどを行い、引き続き利用者増に向けた周知を行っていく。

高山市の概要

地域特性	- 日本一広大な市域を持ち、標高差が大きい - 豪雪地帯であり、冬期においては徒歩や自転車での移動が困難 - 年間470万人以上の観光客が訪れ、外国人観光客が増加
地域課題	- 人口減少や高齢化により公共交通の利用者数が減少、運転手確保が困難 - 人件費や燃料費の高騰などにより運行経費が増加 - 運転免許自主返納などによる高齢者の移動制約者が増加 - 店舗の閉店など日常生活の移動範囲に変化が生じており、地域の実情に応じた効率的な運行が必要

高山市地域公共交通網形成計画（令和2年3月策定）

公共交通の目指す姿

- 多くの市民が通勤、通学、通院、買い物などに地域公共交通を利用している
- 観光客が移動手段として地域公共交通を利用している

計画期間

令和2年度～令和6年度（5年間）

計画の目標

①年間利用者数

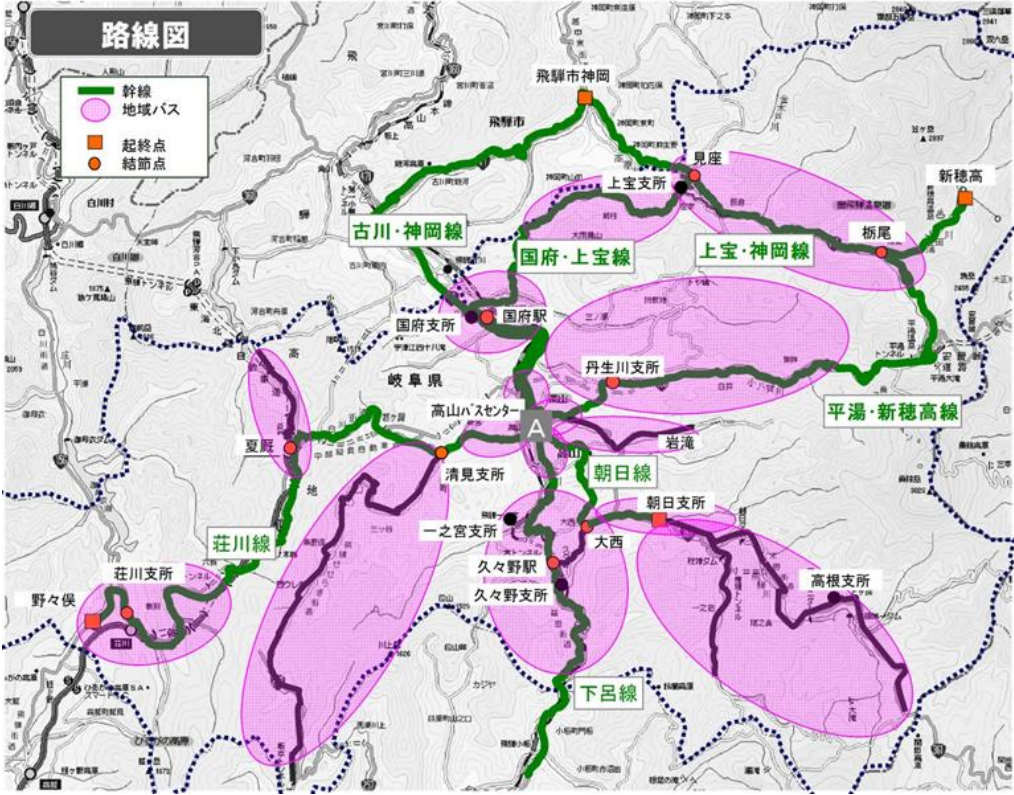
141万人(H30) ➡ 149万人(R6)

②地域一人当たりの年間利用回数

1.76回(H30) ➡ 2.5回(R6)

③市民満足度指数の増加

見直しの方向性：地域特性に即した少量輸送体制の確立、中心市街地における2次交通整備



■今年度実施した主な取り組み

○おでかけ支援事業第2弾(R3.6～)の実施

➡新型コロナウイルスの影響により減少した移動需要を呼び戻し、厳しい状況にあるバスやタクシー事業者への支援を実施

貸切バスやタクシーの利用に対する助成や、路線・貸切バス・タクシーを利用した県内の旅行ツアー商品に対して一定額の助成を行うなど、お得な料金で利用できる旅行ツアーなどにより市民や観光客のおでかけ需要の喚起を行った。



○のりものラリーinたかやまの開催(R3.11～12)

コロナ禍におけるのりものフェスタに代わるイベントとして初の試みを実施。マイ時刻表で乗継を考えながら、バスのOBC画面を活用したキーワードラリーや市内施設でのクイズラリーに参加すると参加賞がもらえるほか、抽選で地元特産品をプレゼント。
1,021人(参加賞配布人数)の市民や観光客の方に参加いただき、実際にバスやタクシーに乗っていただく機会を創出した。



○のらマイカーの運行ルート見直し(R3.4～)

➡地域内運行のバスについて地域外への乗り入れ運行を実施

買い物や通院が地域内で完結することが困難な地域において、地域外の最も近い商業エリアへの路線延伸や、民間路線バスとの直通運転による隣接市への乗り入れを行うことで利便性の確保を図った。
一之宮地域では、R3.4の開始以降前年比で利用者が**倍以上の増加**となった。



■ 公共交通網形成計画における評価の基本的考え方

網形成計画に基づく各種事業実施を通じ、

地域公共交通の目指す姿

○多くの市民が通勤、通学、通院、買い物などに地域公共交通を利用している

○観光客が移動手段として地域公共交通を利用している

ことを定量的に示す評価指標を設定している。

- ・ 目標値の設定に当たって、利用者数だけで評価した場合、人口減少による影響が少なくないため、利用頻度や市民の満足度を加えるものとし、多面的に評価を行うものとする。
- ・ 自己評価は令和4年1月18日に第3回高山市公共交通活性化協議会(書面決議)で承認を受けた

■ 評価指標および目標値

定量的な評価指標	H30年度 (基準年度)	R6年度 (目標年度)	R2年度 (実績)	R3年度 (実績)	評価
①年間利用者数（民間路線バス）	59.1万人	59.1万人	60.8万人	45.1万人	未達成
年間利用者数（自主運行バス）	15.4万人	23.5万人	14.9万人	12.9万人	未達成
年間利用者数（タクシー・福祉有償運送）	68.1万人	68.1万人	60.5万人	29.9万人	未達成
②一人当たり年間利用回数（自主運行バス） （各路線平均）	1.8回	2.5回	1.5回	1.6回	未達成
③「日常的に利用できる公共交通体系が整っている」と感じている市民の割合	42.3%	↗	47.0%	52.1%	達成

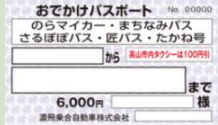
（自主運行バスの路線別年間利用者数、地域別一人当たり年間利用回数は次ページ以降で評価）

■ ① 自主運行バス年間利用者数評価（路線別） 【上期（R2.10～R3.3）】

・新型コロナウイルスの影響を反映するため、上期と下期に分けて評価を行うこととした。

※前年度上期はコロナの影響をほとんど受けていない期間のため、コロナ前とコロナ後の比較となる。

コロナ前とコロナ後の比較

利用者数	前年度 (R1.10～R2.3)	現状数値 (R2.10～R3.3)	前年比	増減率	目 標	達成状況	目標達成状況についての評価
まちなみバス (中心市街地バス)	16,304人	13,048人	▲3,256人	▲20.0%	コロナ前の水準 を達成する	未達成	× 減少要因 ✓ R3.1月に再び緊急事態宣言が発令され、学校 休校による通学利用の減や行事中止に伴う日常 利用の減、観光利用の減により大幅に利用者が 減少した。 ✓ 市内でも感染者が増加したことにより、 移動自粛の動きが強まった。 ○増加要因 ✓ R2.4月から観光特化型バス「匠バス」の運行を 開始。緊急事態宣言の発令により約2か月間の 運休となるが、「のりものフェスタinたかや ま」では1日で約2,500人に利用いただくなど、 利用者増に寄与した。  ✓ 朝日地域では、地域の要望にあわせたデマンド タクシーのダイヤ見直し（R2.4～）を行ったこ とにより、コロナ前よりも利用回数の増がみら れた。定期的な住民ニーズの把握を行うことが 効果的である。 ✓ 高根地域では「おでかけパスポート」の利用が 定着し、固定客の利用回数の増を図ることがで きた。 
匠バス (観光特化型バス)	※R2.4運行開始	13,073人	13,073人	－ %	－	－	
のらマイカー (高山地域)	42,648人	36,459人	▲6,189人	▲14.5%	コロナ前の水準 を達成する	未達成	
のらマイカー (丹生川地域)	1,364人	1,052人	▲312人	▲22.9%	コロナ前の水準 を達成する	未達成	
のらマイカー (清見地域)	4,859人	4,360人	▲499人	▲10.3%	コロナ前の水準 を達成する	未達成	
のらマイカー (荘川地域)	1,508人	1,148人	▲360人	▲23.9%	コロナ前の水準 を達成する	未達成	
のらマイカー (一之宮地域)	380人	255人	▲125人	▲32.9%	コロナ前の水準 を達成する	未達成	
のらマイカー (久々野地域)	1,761人	1,666人	▲95人	▲5.4%	コロナ前の水準 を達成する	未達成	
のらマイカー (朝日地域)	67人	234人	167人	349.3%	コロナ前の水準 を達成する	達成	
たかね号 (高根地域)	1,007人	1,082人	75人	107.4%	コロナ前の水準 を達成する	達成	
のらマイカー (国府地域)	2,042人	1,867人	▲175人	▲8.6%	コロナ前の水準 を達成する	未達成	
のらマイカー (上宝地域)	731人	236人	▲495人	▲67.7%	コロナ前の水準 を達成する	未達成	
計	72,671人	74,480人	1,809人	102.5%	－	－	

■ ① 自主運行バス年間利用者数評価（路線別） 【下期（R3.4～R3.9）】

・新型コロナウイルスの影響を反映するため、上期と下期に分けて評価を行うこととした。

※いずれの期間も新型コロナウイルスの影響を受けている期間であり、コロナ後同士の比較となる。

コロナ後 とコロナ後の比較

利用者数	前年度 (R2.4～R2.9)	現状数値 (R3.4～R3.9)	前年比	増減率	目 標	達成状況	目標達成状況についての評価
まちなみバス (中心市街地バス)	10,103人	12,163人	2,060人	120.4%	前年度より増加させる	達成	✓地域の要望等を踏まえ、一之宮地域（デマンドタクシー）および上宝地域でのらマイカーの地域外への路線延伸（R3.4～）を行ったことで、利用回数の増を図ることができた。 ✓新型コロナウイルスワクチン接種が進み、匠バス・まちなみバスで観光利用の戻りが見られた。 ✓高校生以下が利用できる無料チケット「ヤングパスポート」の積極的なPRにより学生の利用が浸透し、利用機会の増を図ることができた。 (6,298回利用⇒前年同期の3倍！) 
匠バス (観光特化型バス)	5,202人	6,807人	1,605人	130.9%	前年度より増加させる	達成	
のらマイカー (高山地域)	29,988人	32,497人	2,509人	108.4%	前年度より増加させる	達成	
のらマイカー (丹生川地域)	851人	932人	81人	109.5%	前年度より増加させる	達成	
のらマイカー (清見地域)	3,377人	3,747人	370人	111.0%	前年度より増加させる	達成	
のらマイカー (荘川地域)	1,076人	1,064人	▲12人	▲1.1%	前年度より増加させる	未達成	
のらマイカー (一之宮地域)	201人	595人	394人	296.0%	前年度より増加させる	達成	
のらマイカー (久々野地域)	1,427人	1,528人	101人	107.1%	前年度より増加させる	達成	
のらマイカー (朝日地域)	193人	184人	▲9人	▲4.7%	前年度より増加させる	未達成	
たかね号 (高根地域)	1,336人	1,345人	9人	0.7%	前年度より増加させる	達成	
のらマイカー (国府地域)	1,461人	1,537人	76人	105.2%	前年度より増加させる	達成	
のらマイカー (上宝地域)	143人	326人	183人	228.0%	前年度より増加させる	達成	
計	55,358人	62,725人	7,367人	113.3%	—	—	

■②自主運行バス一人当たり年間利用回数（地域別）

地域別	目標数値（R6年度）			現状数値（R3年度）			差 異	目 標	達成状況
	人口	利用者数	利用回数	人口	利用者数	利用回数			
高山地域	57,934人	171,000人	3.0回	60,752人	114,047人	1.9回	▲1.1回	目標数値より増加させる	未達成
丹生川地域	3,849人	3,800人	1.0回	4,123人	1,984人	0.5回	▲0.5回	目標数値より増加させる	未達成
清見地域	2,124人	8,000人	3.8回	2,238人	8,107人	3.6回	▲0.2回	目標水準を維持させる	達成
荘川地域	1,089人	3,800人	3.5回	1,037人	2,212人	2.1回	▲1.4回	目標水準を維持させる	未達成
一之宮地域	2,264人	1,100人	0.5回	2,465人	850人	0.3回	▲0.2回	目標数値より増加させる	未達成
久々野地域	3,150人	4,600人	1.5回	3,307人	3,194人	1.0回	▲0.5回	目標数値より増加させる	未達成
朝日地域	1,420人	700人	0.5回	1,503人	418人	0.3回	▲0.2回	目標数値より増加させる	未達成
高根地域	264人	2,300人	8.9回	291人	2,427人	8.3回	▲0.6回	目標水準を維持させる	未達成
国府地域	6,974人	6,900人	1.0回	7,452人	3,404人	0.5回	▲0.5回	目標数値より増加させる	未達成
上宝地域	2,866人	2,800人	1.0回	2,771人	562人	0.2回	▲0.8回	目標数値より増加させる	未達成
合計	81,934人	205,000人	2.5回	85,939人	137,205人	1.6回	▲0.9回	目標数値より増加させる	未達成

※目標人口の数値は、第八次総合計画の将来展望の数値を採用している

※維持している±0.2回程度

【目標達成状況についての評価】

- ②一人当たり年間利用回数

 - ✓高山地域では目標水準との乖離が大きい。
⇒観光利用や学生の通学利用が多く、自家用車などの代替手段に置き換えることが可能であるため、新型コロナウイルスの影響を大きく受けたと考えられる。
 - ✓支所地域では目標数値との乖離が比較的少ない。
⇒高齢者などの移動制約者が多く、日常移動に無くてはならない必要不可欠な路線であると考えられる。
- ③「日常的に利用できる公共交通体系が整っている」と感じている市民の割合

 - ✓地域の要望を聞きながら各地域の実態を踏まえた運行ルートやダイヤの見直しを行ったことにより、利用者の利便性が向上したと考えられる。
 - ✓「ヤングパスポート」の配布や「おでかけパスポート」の販売により、若年者や高齢者が利用しやすくなったと考えられる。
 - ✓「のりものフェスタ」や「のりものラリー」、バス事業者による「謎解きゲーム」などの企画イベントにより、今まで公共交通について知らなかった人に知ってもらう機会となったと考えられる。

課題 1 : 生活様式の変化による移動需要の減少

⇒新型コロナウイルス感染症の影響によりオンライン化が急激に進む中で、必要最小限の外出や移動で日常が成立する生活様式に変化しつつある。

対応方針

- ①アフターコロナの社会で、公共交通に乗って移動すること自体がおでかけの目的になるような、新しいおでかけの形を提案できる利用促進策を実施し利用者確保に努めていく。
(実施策) 市内を対象としたマイクロツーリズムの実施、店舗やイベント情報サイト・アプリ運営会社を巻き込んだマルチモーダルな仕組みの構築、のりものラリーinたかやまのブラッシュアップ開催
- ②誰でも気軽に公共交通を利用できる利用促進策を実施し利用者確保に努めていく。
(実施策) ヤングパスポートの配布、おでかけパスポートの販売、1日フリー木っづの販売、観光客への匠バス利用促進PR、匠バスを活用した利用促進企画等

課題 2 : 高齢化進展に伴う公共交通へのニーズの高まり、人口減少による地域での店舗閉店に伴う移動範囲の変化

⇒移動制約者の増加が見込まれる中で、運行エリアの拡大やダイヤの拡充等が求められている。

対応方針

- ①既存の運行エリアや路線、ダイヤ、運賃、バス停位置などの見直しと併せ、デマンド運行や少量運送、交通空白地有償運送等の導入の検討を行いながら、地域特性に合わせた運行体系となるよう見直しを進めていく。
(実施策) 旧新興団地におけるAIオンデマンドタクシーなどの新しい手法の検討、過疎地域におけるデマンド運行や少量運送など需要量に応じたモード(交通手段)の提供、デマンド予約システムやアプリを活用した複数モード間の連携

課題 3 : ICTを活用した利用環境の向上や利用状況の見える化

⇒利用者の利便性向上と併せ、効果的な運行見直しの検討のために多方面から分析できる利用状況データが不可欠である。

対応方針

- ①GTFS(世界標準の公共交通データフォーマット)のオープンデータ化と経路検索の高度化を推進する。
- ②要望の多いバスロケーションシステム導入とあわせ、利用状況収集のための乗降センサーの設置を検討する。
- ③ヤングパスポートや市民乗車パスなどのデジタルチケット化を進める。
- ④デマンドタクシーのオンライン予約システムの導入を検討する。
(実施策) 市内タクシー事業者による一般タクシーとオンデマンド切替式の配車システム実証実験の実施(R3.10~R3.12)

令和4年1月18日

協議会名：高山市公共交通活性化協議会

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

A・・・目標数値に対して1割以上の増加 B・・・目標数値に対し1割未満の増減範囲 C・・・目標数値に対し1割以上の減少

※増減率は、小数点以下第1位を四捨五入し評価する

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況		⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
【補助対象となる事業者名 等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区 間、整備内容等を記載(陸上交通に係る 確保維持事業において、車両減価償却 費等及び公有民営方式車両購入費に係 る国庫補助金の交付を受けている場合、 離島航路に係る確保維持事業において 離島航路構造改革補助(調査検討の経 費を除く。)を受けている場合は、その旨 記載)】	【事業評価の評価対象期間において、前回の 事業評価結果をどのように生活交通確保維持 改善計画に反映させた上で事業を実施したか を記載】	A ・ B ・ C 評 価	【計画に基づく事業が適切に実施され たかを記載。計画どおり実施され なかった場合には、理由等記載】	A ・ B ・ C 評 価	【計画に位置付けられた定量的な目標・効果 が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・ 効果が達成できなかった場合には、理由等 を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改 善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組み について広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維 持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具 体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
濃飛乗合自動車株式会社	中心市街地 (まちなみバス)	下記の利用促進策を実施し、利用者の増加を 図った。 ・小学生以上高校生以下が無料で乗車できる 「ヤングパスポート」の配布および周知 ・高齢者専用パスポート「おでかけパスポート」 の販売及び周知 ・運転免許証の自主返納者に対して「おでかけ パスポート」を1年分無料発行 ・飛驒の木材を使用した「1日フリー木っぷ」の 販売 ・高速バスの往復乗車券と「1日フリー木っぷ」 セット券の販売 ・バスを活用した謎解きゲーム「飛驒の匠の ルーツと謎を解き明かせ」を夏休み期間に実施 ・「のりものフェスタinたかやま」の開催(会場分 散開催、1日フリー乗車キャンペーン) ・旅行ツアー企画支援事業(路線バス)を活用 した企画商品の販売(「Made in 飛驒を巡る匠 美木富」、「飛驒高山七物語すぺしゃる食うぼん セット券」など) ・プレミアム付き公共交通利用券の販売及び周 知 ・新型コロナウイルス感染症予防対策の実施	A	計画どおり事業は適切に実施され た。	上期:C 下期:A	目標①「コロナ前の利用水準を達成する」 【上期】 R1.10～R2.3/16,304人 R2.10～R3.3/13,048人 対前年比 3,256人減少(▲20.0%) 目標②「前年度よりも利用者を増加させる」 【下期】 R2.4～R2.9/10,103人 R3.4～R3.9/12,163人 対前年比 2,060人増加(+20.4%) 目標③「一人当たりの年間利用回数目標値 を達成する」 R6目標値(高山地域):3.0回 R2.10～R3.9:1.9回(▲1.1回) 上期は、令和2年10月に開催した「のりもの フェスタinたかやま」の影響により利用者は 増加傾向であったものの、年明けから緊急 事態宣言が発令されたことに加えて市内でも 感染者が増加したことにより、利用者が大幅 に減少した。 下期は、GW頃までは3度目の緊急事態宣言 により低調であったものの、6月以降から観 光客の利用も増え始め、前年度よりは状況 が好転してきている。	まちなみバスについては、R2年4月からの 「匠バス(観光特化型バス)」の運行開始に合 わせて、商業施設や公共施設を経由するな ど市民の需要に合った路線にするための見 直しを行ったが、運行路線の効率化等を図る ため引き続き見直しの検討をすすめる。

令和4年1月18日

協議会名：高山市公共交通活性化協議会

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

A・・・目標数値に対して1割以上の増加 B・・・目標数値に対し1割未満の増減範囲 C・・・目標数値に対し1割以上の減少

※増減率は、小数点以下第1位を四捨五入し評価する

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況		⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
【補助対象となる事業者名 等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区 間、整備内容等を記載(陸上交通に係る 確保維持事業において、車両減価償却 費等及び公有民営方式車両購入費に係 る国庫補助金の交付を受けている場合、 離島航路に係る確保維持事業において 離島航路構造改革補助(調査検討の経 費を除く。)を受けている場合は、その旨 記載)】	【事業評価の評価対象期間において、前回の 事業評価結果をどのように生活交通確保維持 改善計画に反映させた上で事業を実施したか を記載】	A ・ B ・ C 評 価	【計画に基づく事業が適切に実施され たかを記載。計画どおり実施され なかった場合には、理由等記載】	A ・ B ・ C 評 価	【計画に位置付けられた定量的な目標・効果 が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・ 効果が達成できなかった場合には、理由等 を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改 善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組み について広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維 持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具 体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
濃飛乗合自動車株式会社	高山地域 (のらマイカー東線)		A	計画どおり事業は適切に実施され た。	上期:C 下期:A	目標①「コロナ前の利用水準を達成する」 【上期】 R1.10～R2.3/6,989人 R2.10～R3.3/6,025人 対前年比 964人減少(▲13.8%) 目標②「前年度よりも利用者を増加させる」 【下期】 R2.4～R2.9/5,198人 R3.4～R3.9/5,786人 対前年比 588人増加(+11.3%) 目標③「一人当たりの年間利用回数目標値 を達成する」 R6目標値(高山地域):3.0回 R2.10～R3.9:1.9回(▲1.1回) 上期は、年明けから緊急事態宣言が発令さ れたことに加えて市内でも感染者が増加した ことにより、利用者が大幅に減少した。 下期は、前年度のような長期の休校等が無 く、日常利用に関しては通常に戻りつつある ため、前年度よりは好転している。	
	高山地域 (のらマイカー西線)					目標①「コロナ前の利用水準を達成する」 【上期】 R1.10～R2.3/13,981人 R2.10～R3.3/11,650人 対前年比 2,331人減少(▲16.7%) 目標②「前年度よりも利用者を増加させる」 【下期】 R2.4～R2.9/9,168人 R3.4～R3.9/10,339人 対前年比 1,171人増加(+12.8%) 目標③「一人当たりの年間利用回数目標値 を達成する」 R6目標値(高山地域):3.0回 R2.10～R3.9:1.9回(▲1.1回) 上期は、年明けから緊急事態宣言が発令さ れたことに加えて市内でも感染者が増加した ことにより、利用者が大幅に減少した。 下期は、前年度のような長期の休校等が無 く、日常利用に関しては通常に戻りつつある ため、前年度よりは好転している。	

継続的にヤングパスポートの周知を図ったこと
で、高校生のヤングパスポート利用者は前
年同期の約3倍となっている。
高校生の通学利用は増加傾向であるため、
状況を踏まえ混雑への対策を検討する。

高山地域を4台の車両でくまなく運行してい
る路線であり、経路変更の要望が多く寄せら
れている。現状を調査し、全体への影響を考
慮しながら見直しを行う。

(次ページへつづく)

令和4年1月18日

協議会名：高山市公共交通活性化協議会

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

A・・・目標数値に対して1割以上の増加 B・・・目標数値に対し1割未満の増減範囲 C・・・目標数値に対し1割以上の減少

※増減率は、小数点以下第1位を四捨五入し評価する

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況		⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
【補助対象となる事業者名 等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区 間、整備内容等を記載(陸上交通に係る 確保維持事業において、車両減価償却 費等及び公有民営方式車両購入費に係 る国庫補助金の交付を受けている場合、 離島航路に係る確保維持事業において 離島航路構造改革補助(調査検討の経 費を除く。)を受けている場合は、その旨 記載)】	【事業評価の評価対象期間において、前回の 事業評価結果をどのように生活交通確保維持 改善計画に反映させた上で事業を実施したか を記載】	A ・ B ・ C 評 価	【計画に基づく事業が適切に実施され たかを記載。計画どおり実施され なかった場合には、理由等記載】	A ・ B ・ C 評 価	【計画に位置付けられた定量的な目標・効果 が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・ 効果が達成できなかった場合には、理由等 を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改 善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組み について広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維 持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具 体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
濃飛乗合自動車株式会社	高山地域 (のらマイカー南線)	(前ページよりつづき) ・運転免許証の自主返納者に対して「おでかけ パスポート」を1年分無料発行 ・「のりものフェスタinたかやま」の開催(会場分 散開催、1日フリー乗車キャンペーン) ・新型ポンチョの導入(利用の多い便にはロン グポンチョを採用) ・飛騨の木材を使用した「1日フリー木っふ」の 販売 ・プレミアム付き公共交通利用券の販売及び周 知 ・新型コロナウイルス感染症予防対策の実施	A	計画どおり事業は適切に実施され た。	上期:C 下期:B	目標①「コロナ前の利用水準を達成する」 【上期】 R1.10～R2.3/8,330人 R2.10～R3.3/7,438人 対前年比 892人減少(▲10.7%) 目標②「前年度よりも利用者を増加させる」 【下期】 R2.4～R2.9/6,016人 R3.4～R3.9/6,582人 対前年比 566人増加(+9.4%) 目標③「一人当たりの年間利用回数目標値 を達成する」 R6目標値(高山地域):3.0回 R2.10～R3.9:1.1回(▲1.9回) 上期は、年明けから緊急事態宣言が発令さ れたことに加えて市内でも感染者が増加した ことにより、利用者が大幅に減少した。 下期は、前年度のような長期の休校等が無 く、日常利用に関しては通常に戻りつつある ため、前年度よりは好転している。	(前ページよりつづき) バス停の移設や増設は、警察、事業者との 現地立会いにより確認を実施し、可能な限り 対応を行っている。場合によっては地域から 適切な場所を提示してもらうなど協力をお願 いしながら見直しを行っている。 高校生から通学利用の利便性の向上を求め る要望が多数出ているため、見直しの検討を すすめる。 引き続き利用促進策に取組むとともに、運転 免許証の自主返納を促進するなど公共交通 の利用ヘシフトしてもらうための取組みを進 める。
	高山地域 (のらマイカー北線)		A	計画どおり事業は適切に実施され た。	上期:C 下期:B	目標①「コロナ前の利用水準を達成する」 【上期】 R1.10～R2.3/11,719人 R2.10～R3.3/9,801人 対前年比 1,918人減少(▲16.4%) 目標②「前年度よりも利用者を増加させる」 【下期】 R2.4～R2.9/8,492人 R3.4～R3.9/8,461人 対前年比 31人減少(▲0.4%) 目標③「一人当たりの年間利用回数目標値 を達成する」 R6目標値(高山地域):3.0回 R2.10～R3.9:1.9回(▲1.1回) 上期は、年明けから緊急事態宣言が発令さ れたことに加えて市内でも感染者が増加した ことにより、利用者が大幅に減少した。 下期は、前年度のような長期の休校等が無 く、日常利用に関しては通常に戻りつつある ため、前年度よりは好転している。	

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

(別添1)

令和4年1月18日

協議会名：高山市公共交通活性化協議会

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

A・・・目標数値に対して1割以上の増加 B・・・目標数値に対し1割未満の増減範囲 C・・・目標数値に対し1割以上の減少

※増減率は、小数点以下第1位を四捨五入し評価する

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況		⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
【補助対象となる事業者名 等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区 間、整備内容等を記載(陸上交通に係る 確保維持事業において、車両減価償却 費等及び公有民営方式車両購入費に係 る国庫補助金の交付を受けている場合、 離島航路に係る確保維持事業において 離島航路構造改革補助(調査検討の経 費を除く。)を受けている場合は、その旨 記載)】	【事業評価の評価対象期間において、前回の 事業評価結果をどのように生活交通確保維持 改善計画に反映させた上で事業を実施したか を記載】	A ・ B ・ C 評 価	【計画に基づく事業が適切に実施され たかを記載。計画どおり実施され なかった場合には、理由等記載】	A ・ B ・ C 評 価	【計画に位置付けられた定量的な目標・効果 が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・ 効果が達成できなかった場合には、理由等 を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改 善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組み について広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維 持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具 体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
濃飛乗合自動車株式会社	高山地域 (のらマイカー岩滝線)	下記のとおり利用促進策を実施し、利用者の 増加を図った。 ・中学校3年生を対象とした高校通学便案内の 作成と周知 ・小学生以上高校生以下が無料で乗車できる 「ヤングパスポート」の配布および周知 ・高齢者専用パスポート「おでかけパスポート」 の販売及び周知 ・運転免許証の自主返納者に対して「おでかけ パスポート」を1年分無料発行 ・プレミアム付き公共交通利用券の販売及び周 知 ・新型コロナウイルス感染症予防対策の実施	A	計画どおり事業は適切に実施され た。	上期:B 下期:A	目標①「コロナ前の利用水準を達成する」 【上期】 R1.10～R2.3/1,629人 R2.10～R3.3/1,545人 対前年比 84人減少(▲5.2%) 目標②「前年度よりも利用者を増加させる」 【下期】 R2.4～R2.9/1,114人 R3.4～R3.9/1,329人 対前年比 215人増加(+19.3%) 目標③「一人当たりの年間利用回数目標値 を達成する」 R6目標値(高山地域):3.0回 R2.10～R3.9:1.9回(▲1.1回) 上期は、年明けから緊急事態宣言が発令さ れたことに加えて市内でも感染者が増加した ことにより、利用者が減少した。 下期は、前年度のような長期の休校等が無 く、日常利用に関しては通常に戻りつつある ため、前年度よりは好転している。	高齢者の利用増加はあるものの、主としては 高校生の通学利用が見込まれる。 利用状況を踏まえて、タクシー車両によるデ マンド運行や地域による少量輸送運行の検 討を行うとともに、利用促進に取り組む。
濃飛乗合自動車株式会社	清見地域 (のらマイカー清見江黒線)	下記のとおり利用促進策を実施し、利用者の 増加を図った。 ・中学校3年生を対象とした高校通学便案内の 作成と周知 ・小学生以上高校生以下が無料で乗車できる 「ヤングパスポート」の配布および周知 ・高齢者専用パスポート「おでかけパスポート」 の販売及び周知 ・運転免許証の自主返納者に対して「おでかけ パスポート」を1年分無料発行 ・プレミアム付き公共交通利用券の販売及び周 知 ・新型コロナウイルス感染症予防対策の実施	A	計画どおり事業は適切に実施され た。	上期:C 下期:A	目標①「コロナ前の利用水準を達成する」 【上期】 R1.10～R2.3/3,002人 R2.10～R3.3/2,714人 対前年比 288人減少(▲9.6%) 目標②「前年度よりも利用者を増加させる」 R2.4～R2.9/2,124人 R3.4～R3.9/2,374人 対前年比 250人増加(+11.8%) 目標③「一人当たりの年間利用回数目標値 を達成する」 R6目標値(清見地域):3.8回 R2.10～R3.9:3.6回(▲0.2回) 上期は、年明けから緊急事態宣言が発令さ れたことに加えて市内でも感染者が増加した ことにより、利用者が減少した。 下期は、前年度のような長期の休校等が無 く、日常利用に関しては通常に戻りつつある ため、前年度よりは好転している。	谷沿いに集落が点在し、路線延長も約30キ ロと長くダイヤ設定の自由度が低いため、地 域で話し合い、路線、時間帯を設定してい る。 高校生の通学利用や高齢者の通院利用の ほか、保育園の通園利用などもあるため、引 き続き地域に合った運行を行っていく。

令和4年1月18日

協議会名：高山市公共交通活性化協議会

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

A・・・目標数値に対して1割以上の増加 B・・・目標数値に対し1割未満の増減範囲 C・・・目標数値に対し1割以上の減少

※増減率は、小数点以下第1位を四捨五入し評価する

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況		⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
【補助対象となる事業者名 等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区 間、整備内容等を記載(陸上交通に係る 確保維持事業において、車両減価償却 費等及び公有民営方式車両購入費に係 る国庫補助金の交付を受けている場合、 離島航路に係る確保維持事業において 離島航路構造改革補助(調査検討の経 費を除く。)を受けている場合は、その旨 記載)】	【事業評価の評価対象期間において、前回の 事業評価結果をどのように生活交通確保維持 改善計画に反映させた上で事業を実施したか を記載】	A ・ B ・ C 評 価	【計画に基づく事業が適切に実施さ れたかを記載。計画どおり実施され なかった場合には、理由等記載】	A ・ B ・ C 評 価	【計画に位置付けられた定量的な目標・効果 が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・ 効果が達成できなかった場合には、理由等 を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改 善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組み について広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維 持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具 体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
濃飛乗合自動車株式会社	荘川地域 (のらマイカー荘川線)	下記のとおり利用促進策を実施し、利用者の 増加を図った。 ・中学校3年生を対象とした高校通学便案内の 作成と周知 ・小学生以上高校生以下が無料で乗車できる 「ヤングパスポート」の配布および周知 ・高齢者専用パスポート「おでかけパスポート」 の販売及び周知 ・運転免許証の自主返納者に対して「おでかけ パスポート」を1年分無料発行 ・プレミアム付き公共交通利用券の販売及び周 知 ・新型コロナウイルス感染症予防対策の実施 毎月地域へ利用状況の説明を行い、啓発を 行っている。 また、貨客混載の実施についても検討し、宅配 事業者に打診したが、配送ルートが確立されて いるため断られ、実施に至らなかった。 のらマイカーや幹線バスを補完するため、地域 団体・行政・福祉事業者などで、小規模で柔軟 な運行方法の検討を行っている。	A	計画どおり事業は適切に実施され た。	上期:C 下期:B	目標①「コロナ前の利用水準を達成する」 【上期】 R1.10～R2.3/1,508人 R2.10～R3.3/1,148人 対前年比 360人減少(▲23.9%) 目標②「前年度よりも利用者を増加させる」 【下期】 R2.4～R2.9/1,076人 R3.4～R3.9/1,064人 対前年比 12人減少(▲1.1%) 目標③「一人当たりの年間利用回数目標値 を達成する」 R6目標値(荘川地域):3.5回 R2.10～R3.3:2.1回(▲1.4回) 上期は、年明けから緊急事態宣言が発令さ れたことに加えて市内でも感染者が増加した ことにより、利用者が減少した。 下期は、前年度のような長期の休校等が無 く、日常利用に関しては通常に戻りつつあ る。	地域内にタクシー事業者の営業所が無く、地 域外の営業拠点も遠方のため、タクシー車 両によるデマンド運行への移行が難しく、地 域による少量輸送運行を検討している。 引き続き、地域の声を聞きながら利用実態に 合わせた効率的な運行を行うとともに利用の 啓発を行っていく。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和4年1月18日

協議会名:	高山市公共交通活性化協議会
評価対象事業名:	確保維持事業(地域内フィーダー系統)
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	高山市は岐阜県北部の山間地域に位置し、面積は2,177.61㎡、人口は84,419人の地方都市である。市町村合併により日本一広大な市域となり、全国平均以上に高齢化・人口減少が進んでいるが、市民の多くは時間の制約が無く目的地まで直接向かうことができる自家用車に依存しており、公共交通の利用者は減少傾向にある。広大な地域にあっても、「多くの市民が通勤、通学、通院、買い物などに地域公共交通を利用している」、「観光客が移動手段として地域公共交通を利用している」ことを目指す姿として掲げ、地域間幹線系統と接続するフィーダー系統(デマンド型・路線型)を組み合わせることで、生活交通ネットワークの構築を進めているところである。